

科目名称：	保育実習指導A	
担当者名：	山田 紀子、村上 知子、永森真佐見	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>「保育士資格」を取得するため、本学では「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅱ」を実施するが、「保育実習指導A」は「保育実習Ⅰ（保育所）」の事前・事後指導に当たる授業である。学習した理論や技術を、実習を通して具体的・総合的に確認することをもくてきとする。「子ども理解」を深め、保育者の職務内容を把握し、実習により保育者にとって大切なことは何かなどを学ぶことを目的とする。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>実習を通して、「保育者の役割」や「子どもの姿」を学び理論や技術を再度確認し、次の実習に生かしていける力を身につけていく。そのための実習の振り返りをしっかりと行い、自分だけでなく他の実習報告を聞くことにより、より深く理解できるようにする。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身につけている。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)			80%	20%	100%
					100%

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》山田 保育士・幼稚園教諭	《経験年数1》 12年4か月・19年
	《内容2》永森 保育士	《経験年数2》 35年
	《内容3》村上 保育士・幼稚園教諭	《経験年数3》 8ヶ月・20年
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 「保育士資格」を取得するために、何が必要なのかを知る。	シラバスを精読し、本講義の概観を頭に入れておく。	30分
第2回 実習園の選択の仕方について学ぶ。	自宅近くの保育所を調べておく。	30分
第3回 実習の目的と履修方法、規定について理解する。	実習園を考えてくる。	30分
第4回 夏休み「保育現場体験学習」について知る。	実習園の概要を調べてくる。	30分
第5回 名札づくりについて学ぶ。	子どもとのコミュニケーションをとるために、何ががいいか考えてくる。	30分
第6回 夏休み「保育現場体験学習」の学生の動きについて知る。	各年齢の子ども姿について調べる。	30分
第7回 DVD「保育士・幼稚園教諭になるために」を視聴し、保育の流れについて知る。（ICTの活用）	保育者の役割について考えてくる。	30分
第8回 保育現場体験学習（金城大学附属西南幼稚園）を行う。	体験学習をするにあたり、何に注意する必要があるかを考える。	20分
第9回 実習に必要な書類の書き方について理解する。	保育実習にあたりどのような心構えが大切かを調べてくる。	30分
第10回 実習必要書類の清書（身上書等）をする。	書きやすいペンを用意し、丁寧に書く練習をしておく。	20分
第11回 オリエンテーションの依頼について理解する。	電話のかけ方やマナーについて考えてくる。	20分
第12回 夏休み「保育現場体験学習」の記録について学ぶ。	ファイルと書きやすいペンを準備し、園の沿革や概要を調べてくる。	30分
第13回 夏休み「保育現場体験学習」の記録に記載する。	記入漏れがないか確認し、必要なことを調べておく。	30分
第14回 「保育現場体験学習」の注意事項について学ぶ。	「保育現場体験学習」でどのようなことが大切か、また必要かを考えてくる。	20分
第15回 記録の書き方について学ぶ。	どのようなことを中心に記録したらよいかを考えてくる。	20分
第16回 「保育現場体験学習」の振り返りを行う。	体験学習のファイルを確認し、何を学んだか考えてくる。	20分
第17回 「保育実習Ⅰ」の内容を理解する。	体験学習を振り返り課題と向き合う。	30分
第18回 オリエンテーションについて学び、身上書の下書きをする。	写真を準備し、書きやすいペンを用意しておく。	30分
第19回 身上書の清書をする。	身上書の内容をしっかりと理解し、丁寧に書く練習をしておく。	30分
第20回 指導案の書き方を学ぶ。	子どもの姿を想定してねらいを考えてくる。	30分

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第21回 指導案を丁寧に書いてみる。	教材研究をし、指導案を書いてくる。	30分
第22回 実習報告会に参加する。	実習の手引きを精読する。	30分
第23回 実習記録の書き方について学ぶ。	実習のねらいを考えて、何を大切に記録するかを考えてくる。	30分
第24回 実習前講演会に参加する。	保育実習 I に関する質問を考えてくる。	30分
第25回 教材について理解する。	実際に実習指導する際に何があるといいかを考えてくる。	30分
第26回 実習の準備をする。	生活に即した子どもの一日の流れを考え、絵本や手遊びを考えてくる。	30分
第27回 お礼状の書き方を理解する。	正しい手紙の書き方を調べてくる。	30分
第28回 実習の振り返りを行う。	実習記録を確認し、どのような学びがあったかを考えてくる。	30分
第29回 次の実習に向けての課題について話し合う。(グループワーク)	学びをどう生かしていくか考えてくる。	40分
第30回 2年生の実習に向けての心構えについてプレゼンテーションする。	自己の課題をプレゼンテーションできるように練習してくる。	40分
<p>事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。</p>		
成績評価の方法・基準		
<p>定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 実習記録50% 提出物30% 授業への積極的関与20%</p>		
実習記録及び指導案を評価、確認返却する。		
教科書・参考書		
<p>「実習の手引き」 金城大学短期大学部 「これで安心！保育指導案の書き方」 開仁志編著 北大路書房</p>		